

## 保安設備設置基準

### 保安設備の設置

道路に関する工事の施行に際しては、工事に起因する交通の危険を防ぎ、道路利用者の安全な道路の利用を確保するため、道路管理者及び所轄警察署の指示するところに従い、適切に保安設備を設置しなければならない。また、保安設備のうち道路標識等の様式、設置方法等については「道路標識、区画線及び道路標示に関する命令（昭和35年総理府・建設省令第3号）」、「道路工事現場における表示施設等の設置基準（昭和37年建設省発第372号）」及び「道路工事保安設置基準（案）平成19年4月愛知県建設部」に準拠して行わなければならない。

- 道路用工事標示板（図1）、歩道用工事標示板（：図2）

工事標示板は工事区間の起終点に設置する。

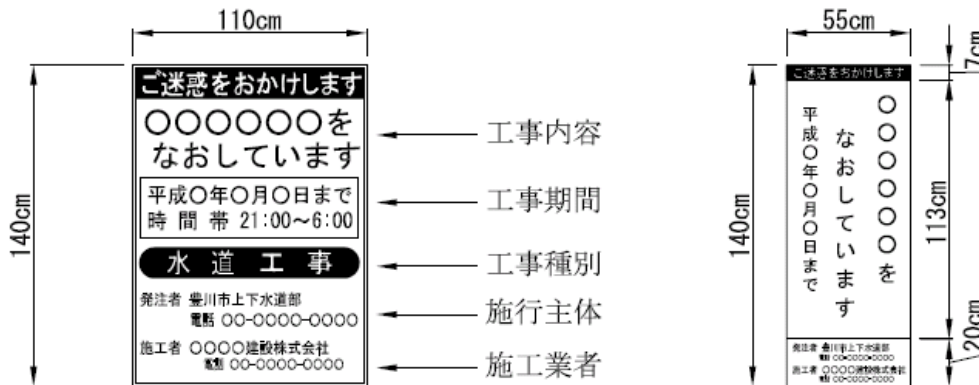


図1

図2

- (1) 色形は、「ご迷惑をおかけします」等の挨拶文、「水道工事」等の工事種別については青地に白抜き文字とし、「〇〇をなおしています」等の工事内容、工事期間については青色文字、その他に文字及び線は黒色、他を白色とする。
- (2) 図1の緑の余白は2cm、緑線の太さは1cm、区画線の太さは0.5cmとする。
- (3) 歩道用工事表示板は、1日で完了する軽易な工事、歩道のない箇所については設置しない。

- 工事中（標識213図3、補助標識501（距離・区域）付き213図）

工事中または作業中である区間の両面と工事区間の手前50m、100m、100m～1kmまでの地点における左側の道路端に交通量等現場の状況を勘案のうえ設置する。工事区間の手前に設置する場合は補助標識501（距離・区域）を付して設置する。

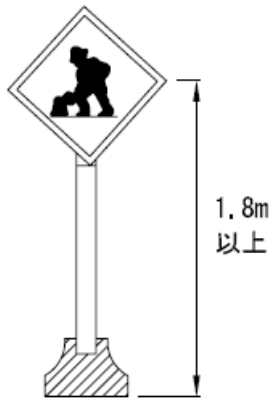


図 3

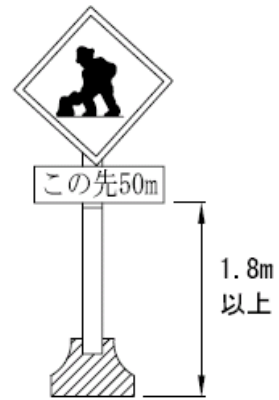


図 4

□ 徐行（標識 329 図 5）

徐行を必要とする箇所（車道幅員の減少、車線変更等）の手前50mの地点に設置する。

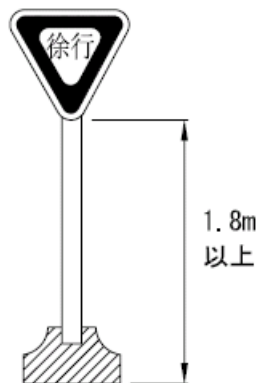


図 5

□ 200Wスポット水銀灯（電灯線が引けない箇所は白色灯2灯で可 図6）

工事案内板を照明するように設置し、高さは工事案内板に応じた高さとする。

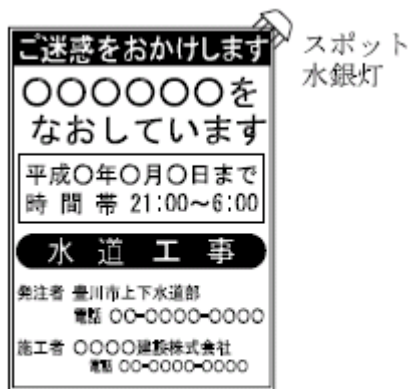
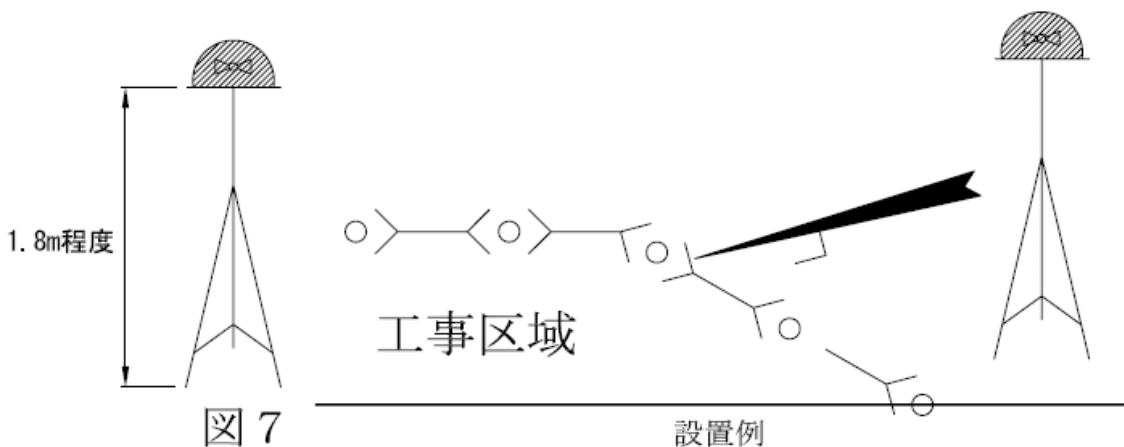


図 6

- 回転灯（電灯線が引けない箇所は赤色灯 1 灯で可 図 1）  
工事区間の起終点の各部に遠方から工事箇所を確認できるように設置する。



（回転灯は黄色とし、光度は夜間200m前方より確認できるものとする。）

- 赤色灯（図 8）  
工事箇所を明確に区分するために設置し、路面から1m程度の高さに、3m以内の間隔で設置する。工事箇所の隅角部の設置については特に注意して行うこと。

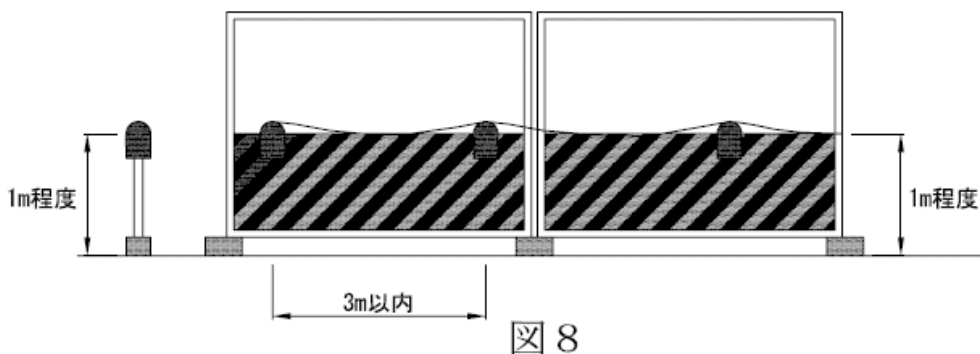


図 8

(赤色灯の光度は夜間前方より150m前方より視認できるものとする。)

#### □ 防護柵

工事の作業区域を周囲から明確に区分するため、作業区域を囲むように設置する。ただし、作業区域が植栽、ガードレール等によって明確に区分されている場合は設置を省略できる。防護柵の設置にあたっては風等で転倒しないように措置すること。

<トラ柵> (図9)

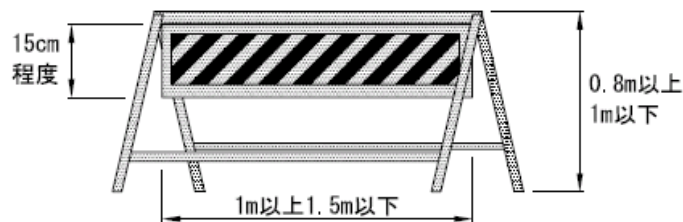


図9

(高さ0.8m以上1m以下、長さ1m以上1.5m以下。支柱上端に幅15cm程度の横板を取り付けたものとする。横板部は黄色と黒で交互に斜縞に彩色し、斜縞の幅は10~15cm、角度は45度を標準とする。)

#### ・直線部の設置方法 (図10)

トラ柵の長さを越える間隔を開けないように設置し、トラ柵の間には保安灯、セイフティコーンを置き、作業場の区域を明確にする。なお、歩行者及び自転車がトラ柵に沿って通行する箇所を設置方法については別記の方法による。

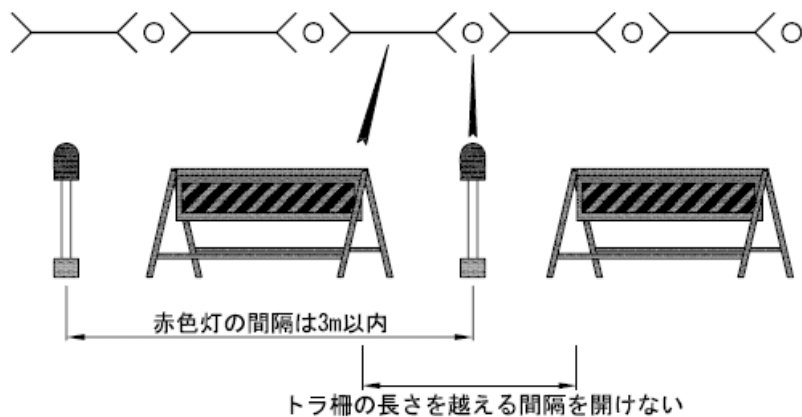


図10

#### ・曲線部の設置方法 (図11)

区域に沿ってトラ柵を設置し、トラ柵の間隔を開けないようにする。

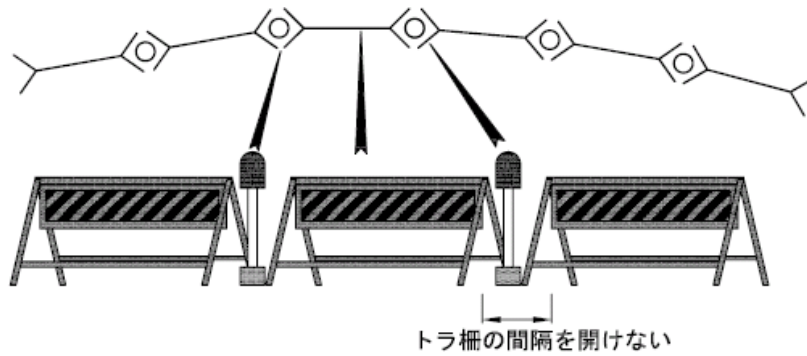


図 1 1

- ・ 交通流に対面する箇所を設置方法 (図 1 2)

原則としてすり付け区間を設け、15度～30度の角度ですりつける。トラ柵の間隔は開けないようにする。

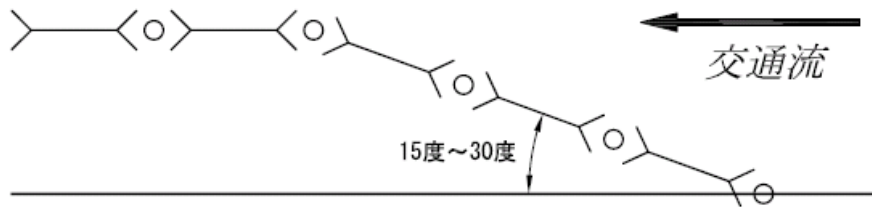


図 1 2

- ・ 歩行者及び自転車がトラ柵に沿って通行する箇所を設置方法

トラ柵の間隔を開けないようにして設置を行うか、トラ柵の間に安全ロープ等を張り、隙間の生じないように措置して設置する。

### <パネルフェンス> (図13)

長期にわたり作業区域を設定する場合、大型作業機械を使用する場合、掘削杭が深い場合、掘削土砂が区域外に飛散する等歩行者に迷惑をかける恐れのある場合、その他特に必要と認める場合に際して用いる。設置する際はパネルフェンスの間隔を開けないようにする。なお、交通流と対面する箇所に設置する場合はトラ柵同様、15度～30度の角度ですりつけ区間を設ける。

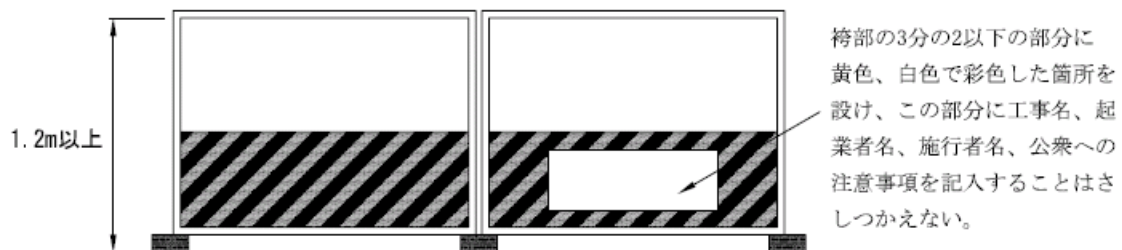


図 1 3

(高さ1.2m以上。(自動車。通行者等の視界を妨げる恐れのある場合は、柵の

10~15cm、角度は45度を標準とする。)

<歩道ロープ> (図14)

歩行者の通路に面する箇所(歩道部等)に使用し、設置に際しては連続させる。  
歩道ロープに替え、トラ柵、パネルフェンスの設置も可。

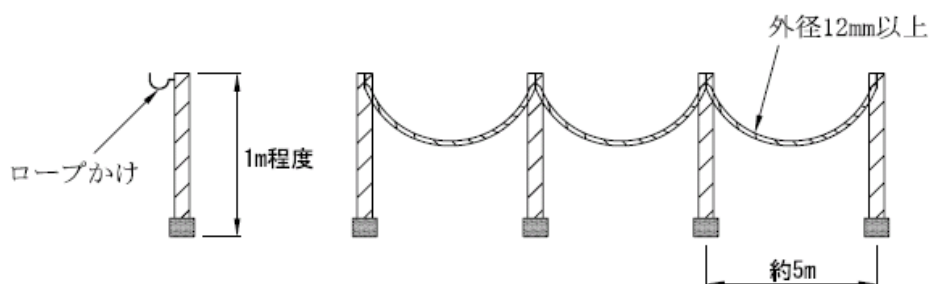


図14

□ 工事区間の終わり (図15)

工事区間の起終点に設置する。

□ 片側交互通行 (図16)

片側交互通行箇所の起終点に設置する。

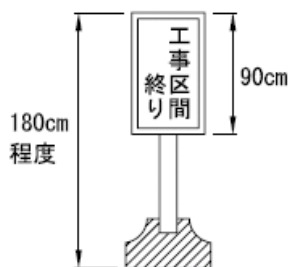


図15

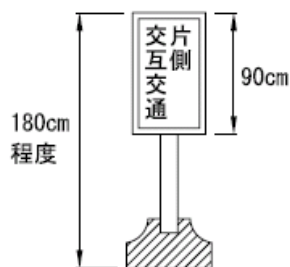


図16

(地色は青色、文字及び縁線は白色とし、1字の大きさは150mm、字体はゴシック体とする。)

□ 電光表示板 (図17)

交通流の多い道路上で工事を施工する場合に、工事箇所の交通流に対面する箇所に設置する。

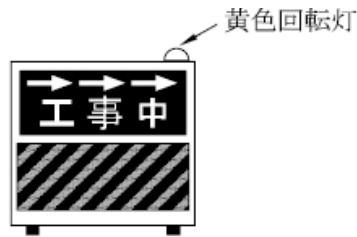


図 1 7

- 指定方向外進入禁止（標識311-E 図18）  
車線減少箇所の手前に設置する。
- 通行止め（標識301 図19）、車両通行止め（標識302 図20）  
通行止めとする箇所の両端に設置する。

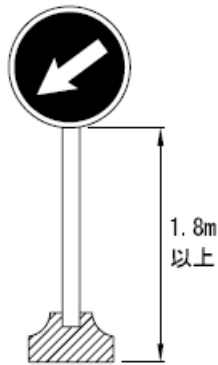


図 1 8

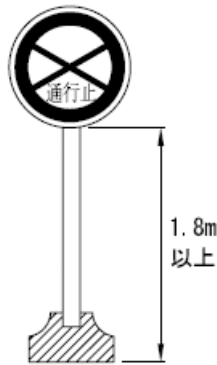


図 1 9

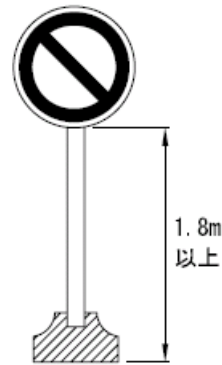


図 2 0

- 車線減少（標識211 図21）、幅員減少（標識212 図22）  
車線変更箇所、幅員減少箇所の手前50mに設置する。
- 二方向交通（標識212の2 図23）  
二方向分離道路等、対向車が分離されている道路から非分離二方向交通の道路となる手前50mに設置する。

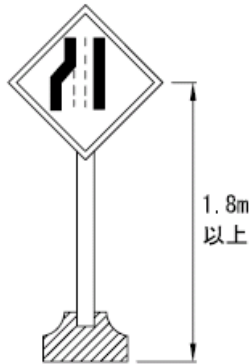


図 2 1

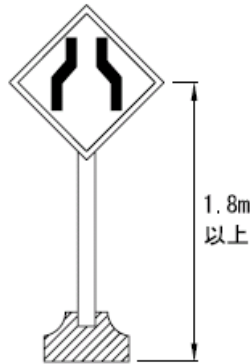


図 2 2

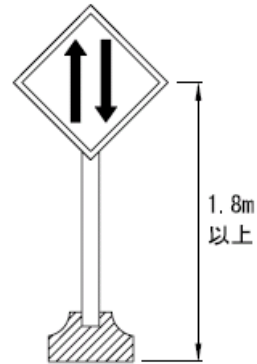


図 2 3

□ まわり道案内板 (図24)

道路工事のためまわり道を設置する場合、まわり道を必要とする期間中、まわり道の入り口に設置する。

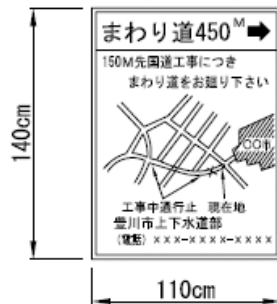


図 2 4

(色彩は地を白色とし、矢印を赤色、その他文字、記号を青色とする。)

□ まわり道 (標識120-A 図25)

まわり道の途中の各交差点 (迷い込む恐れのない小分岐は除く) に設置する。設置要領は図26参照。

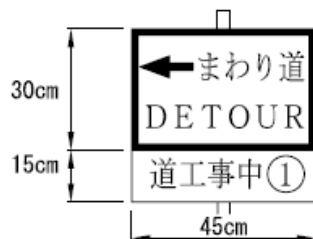


図 2 5



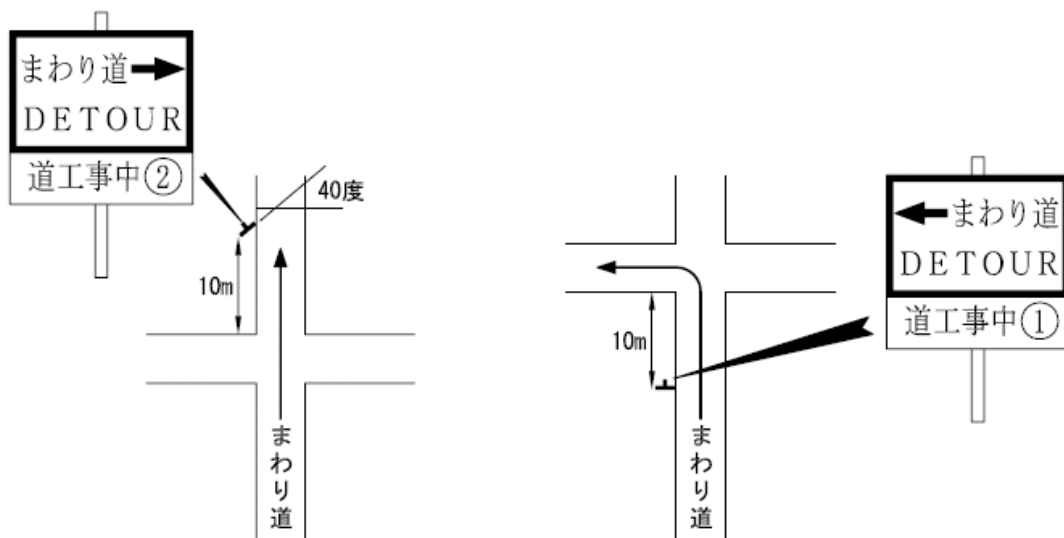


図 2 6 標識「まわり道」(120)の設置要領

□ 矢印看板 (図27)

工事区間の起点など、交通流に対面する箇所に設置し、交通流の安全な誘導を促すために用いる。

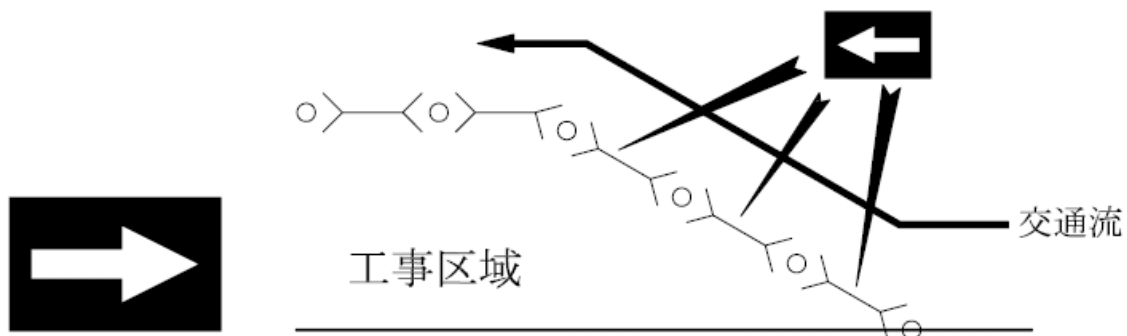
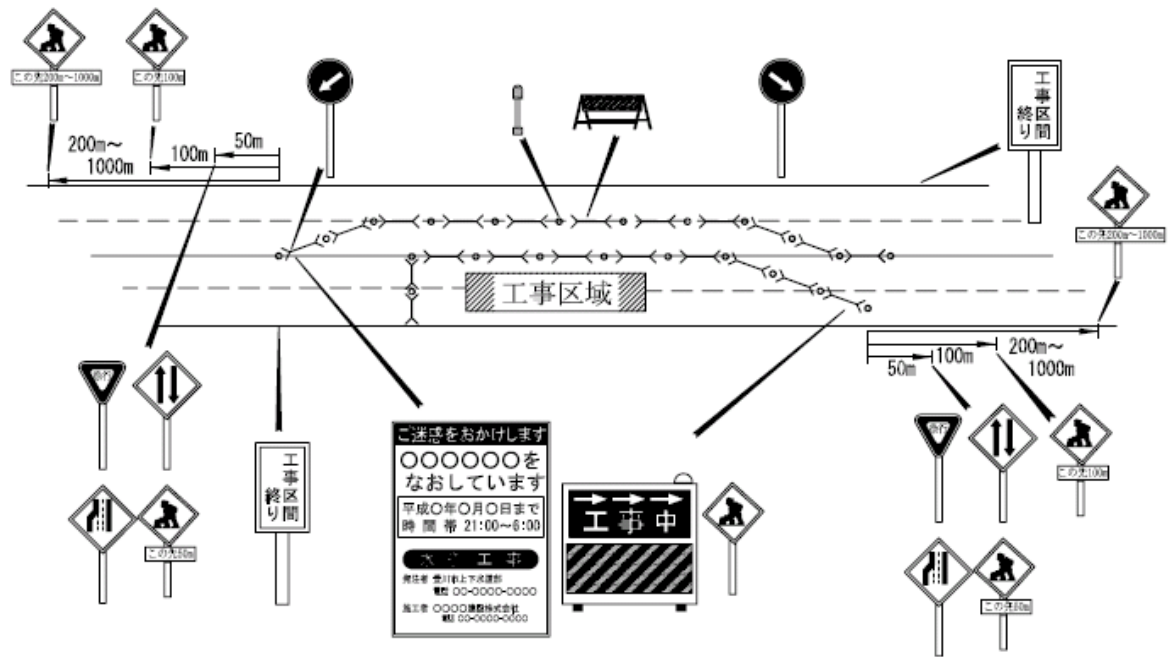


図 2 7

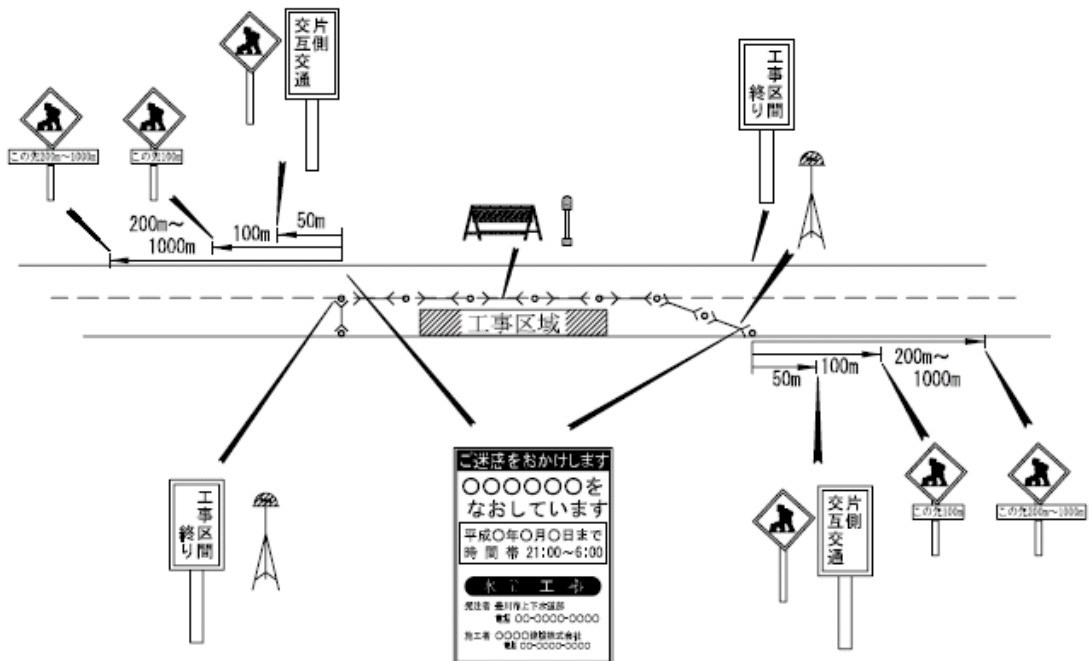
設置例

(保安設備設置例)

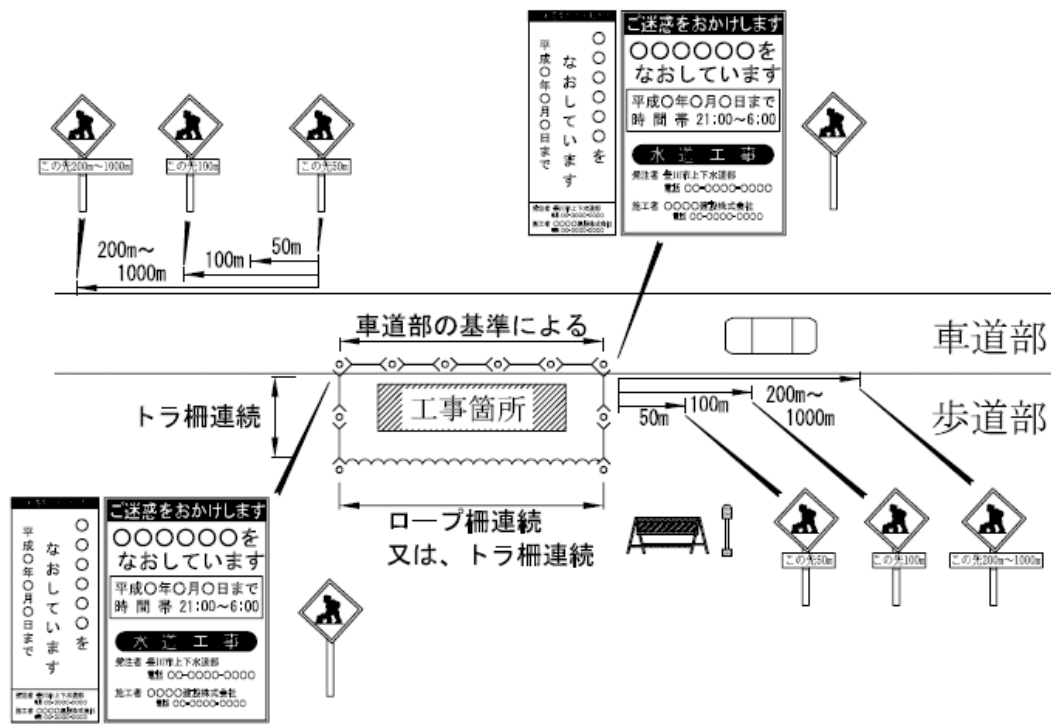
○ 4車線 片側全車線閉塞



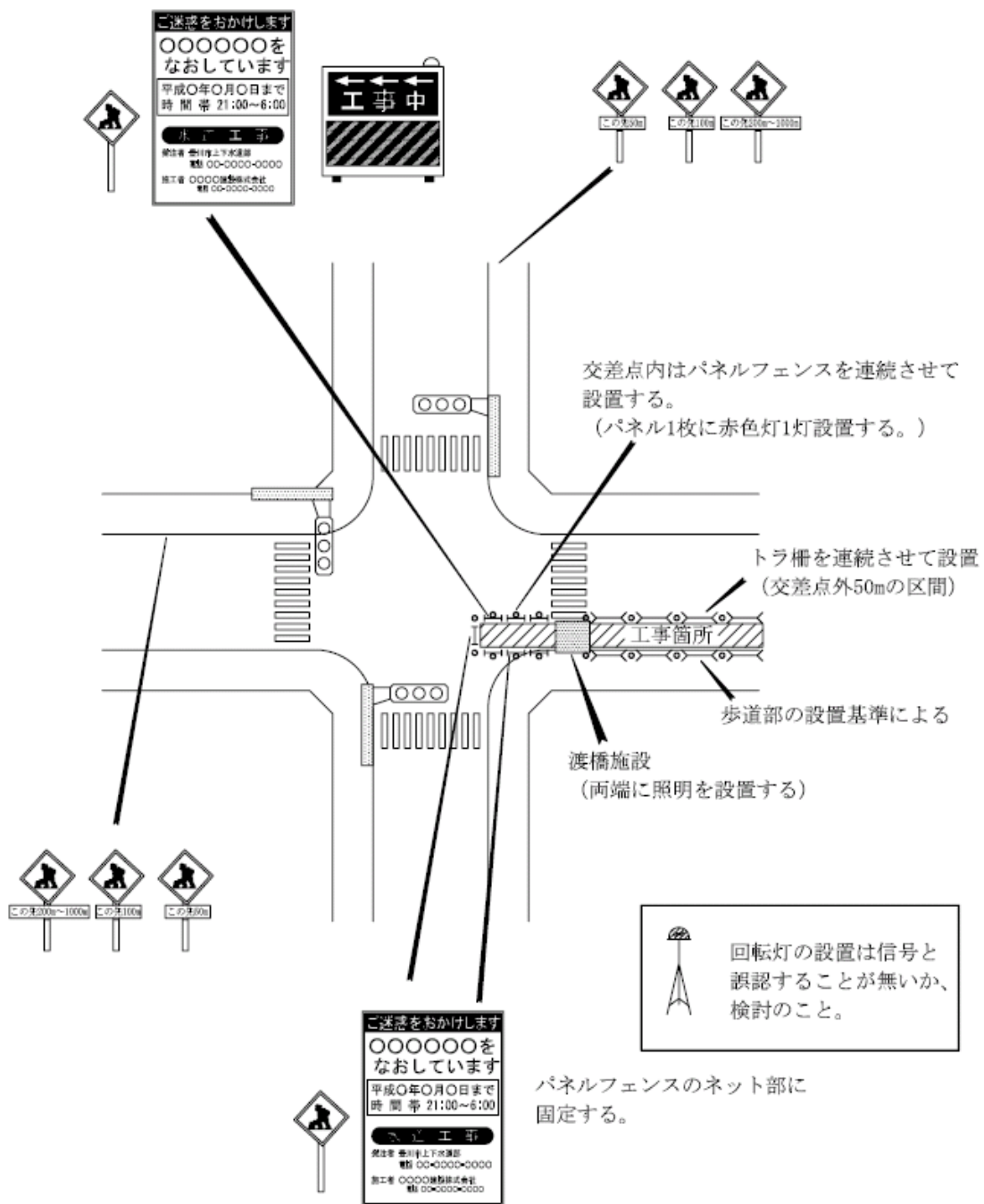
○ 2車線 片側全車線閉塞 (片側交互通行)



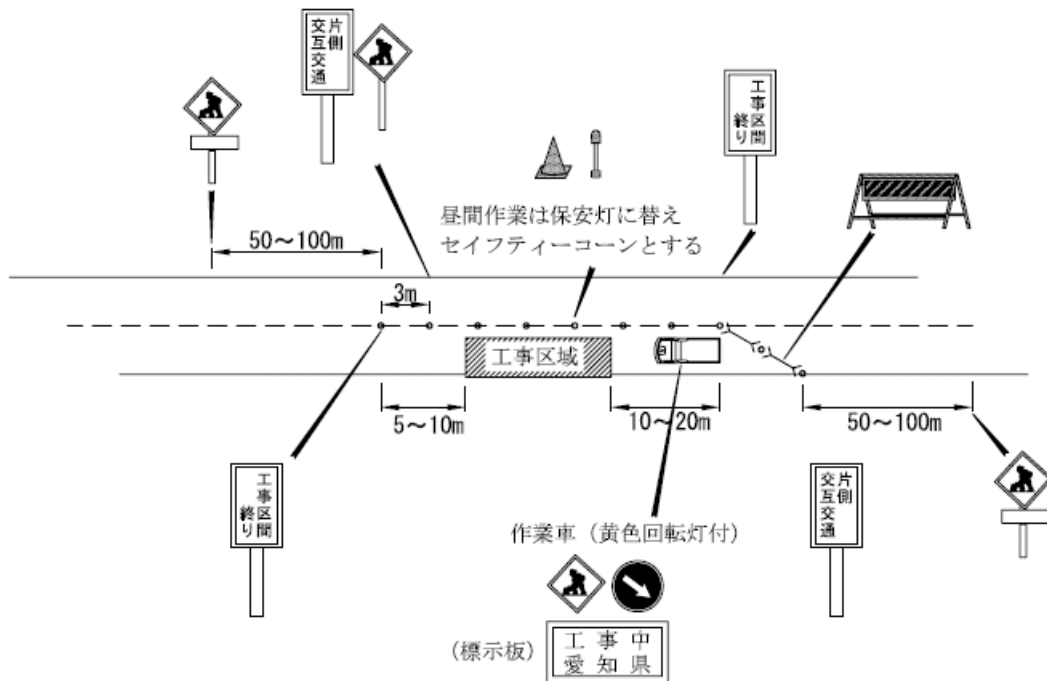
○歩車部工事



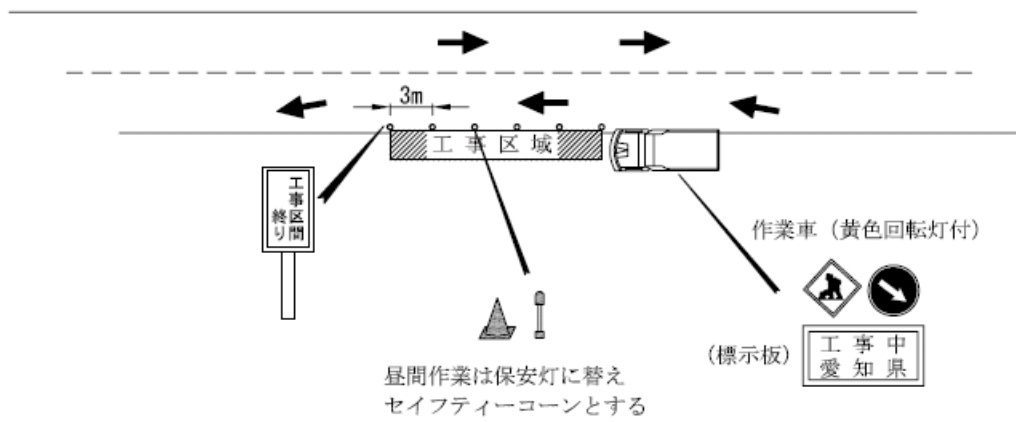
○交差点及びその付近  
 重要交差点（信号交差点、それに順ずる交差点）



○局部打替（小規模）カットカバー等  
 （比較的短時間に工事箇所が移動する場合）



○短時間の路側作業（入力）



○迂回路設置

